

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 12 月 15 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170500397		
法人名	ハートライフ株式会社		
事業所名	ハート介護センターグループホーム		
所在地	岐阜県各務原市那加雄飛ガ丘町17番地の20 (電話) 0583-82-1425		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成19年12月6日	評価確定日	平成20年1月9日

【情報提供票より】 (平成 19 年 11 月 22 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 9 月 22 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	6 人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	17 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		566 円

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 11 月 22 日 現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護 1	0 名	要介護 2	6 名		
要介護 3	1 名	要介護 4	1 名		
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	58 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	丹羽医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

畳の部屋や縁側、障子等があり、利用者にとって我が家に近い民家で、開設時からの管理者と、「家族の様に、心と心のふれあいを」の理念を共有する職員に見守られながら、利用者は一人ひとりのペースでゆったりと生活している。トラブルも無く、職員も利用者も、穏やかで、落ち着きがあり、調理の得意な利用者が職員に教え、笑いあふれる和やかな台所の雰囲気が醸し出され、「おふくろの味」たっぷりの美味しい食事が提供されている。一面、職員の研修への参加が少なく、重度化していく利用者への対応に一抹の不安を抱えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ケアマネジャーと管理者が利用者ごとの課題の把握に取り組み、家族や職員の意見や気づきを取り入れた介護計画が作成され、応急手当や感染症対応のホーム内研修の実施、早期退院受入れの相談や医療機関との連携を密にする等、前回の評価の改善課題に真摯に取り組んできた。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は評価の意義を理解し、介護の振り返りや見直しに活かし、前回の評価での改善課題に真摯に取り組んできたが、自己評価には参加していない。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者の現状(事故も含む)や事業活動等の報告や質疑応答を行い、アドバイスを受け、サービスの質の向上や運営に活かしている。また、地域行事への参加、今後の自治会行事等について討議し、地域の一員として交流して行く上での情報を得ている。地域の人を含めた避難訓練を計画、実施し、防災面での協力体制についても検討している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会時に、利用者の家族からの話を聞いたり、相談にのっている。運営推進会議や利用者や家族、職員がレストランで食事を共にしながらの交流会等、気楽に話し合える雰囲気作りに努め、家族の意見をサービスの質の向上や運営へ反映し、活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内の自治会に加入しており、月1回、徒歩5分位の場所で行われる「集い」に参加し、お茶を飲んだり、体操をして楽しいひと時を過ごしている。散歩を兼ねて、毎日、近くの神社へ参拝したり、すぐ隣りにある喫茶店で地域の人達とふれあう中で馴染みの関係を作り、地域との連携が保たれている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者を尊重し、安心して暮らしていただけるよう支援していく上で、「家族の様に、心と心のふれあい」という理念を掲げている。	○	地域への啓発に活かすべく、パンフレットへの記載があると更に良い。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員はどのような場面に於いても「自分の家族だったら」「家族のように」と、支援していくことが出来る様、月1回のケア会議の際、出席者全員で理念を再確認している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の自治会に加入し、天気の良い日は希望に応じ、散歩や神社への参拝、喫茶店に出かけたり、月1回、地域で行われる「集い」に利用者も参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解し、ケアの振り返りや見直しに活かし、前回の評価での改善点に真摯に取り組んできた。	○	運営者、管理者のみで評価を行っているので職員も一緒に臨まれたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1度、自治会長、民生委員、老人クラブ代表、近隣ケア代表、包括支援センター、市役所、家族代表等の出席を得、ホームからの報告に対しての意見アドバイスを受け、サービスの質の向上に活かすと共に協力や交流への取り組みに活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表者は、市役所へ出向き、利用者の困難な事例の相談や意見交換をしたり、情報を得ている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、ハート便り、利用者の今月の様子、会計報告等、一人ひとり郵送にて報告して居る。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、運営推進会議、利用者と家族、職員がレストランで食事を共にしながらの交流会等、気楽に話し合える雰囲気作りに努め、相談に応じている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職する職員については、不穏を招かないよう利用者へは配慮し、家族には、毎月の便りの中で知らせている。新しい担当職員が馴染めるよう、古い職員が間にはいりダメージを抑えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での研修は、ケア会議の中で実施しているが、外部での研修には代表者と管理者が参加し、職員は報告を受けている。	○	重度化している利用者への認知症対応等、専門性を高めていく上でも、職員が段階に応じた研修に参加出来る研修計画の取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修同様、代表者が同業者と交流し、職員に報告している。	○	直接ケアに携わっている職員層も、他の同業者との交流や意見交換が出来る機会を得て、質の向上を図る取り組みに期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約時に自宅訪問をして生活歴を知り、新しい利用者がホームの環境に馴染めるまで、職員は介護者は随時に会議を実施し、気づきを報告し合い、同じ思いで対応している。希望により、体験入居も出来る。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜作りや調理等を利用者に教えてもらったり、一緒に洗濯物をたたんだり、歌ったり、職員は利用者と共に和やかに生活出来る環境作り、場面作りに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p><b>1. 一人ひとりの把握</b></p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>契約時に家族から生活歴を聞き取り、入居後も本人から話しを聞くようにしている。思いを表すのが困難な利用者には、職員は「自分だったら」という思いで一人ひとりの利用者の意向の把握に努めている。</p>		
<p><b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b></p>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>面会時に家族や本人から意向を聞き、ケア会議で職員が気づき等を気楽に述べ合い、それらを反映させ、一人ひとりの利用者主体の介護計画が作られている。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状態の変化に応じた見直しがなされ、家族へ報告している。</p>		
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入居前の体験やショートステイの対応もある。必要に応じて通院介助を行っている。また、入院時に見舞いに行ったり、洗濯支援もしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に応じ、同意を得、かかりつけ医を決め通院の支援をしながら連携を深めている。協力医の往診は週1回ある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今迄に看取りは無い。利用者の心身の状態・変化を、随時、家族に報告し、相談しながら対応している。具体的な方針は検討中である。	○	本人や家族の意向とホームの力量の両面から十分検討をし、職員・家族・医療機関との連携体制を明確にした方針作りに期待したい。また、職員が終末期の対応に不安がない様十分な準備が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	掲示物、通信などの写真について家族の同意を得る等、個人情報の取り扱いに留意し、一人ひとりに合わせた言葉掛けや対応がなされている。居室と居室の間仕切りが襖だけの部屋があるが、襖を開けることで開放感が生まれ、利用者にはプラスに作用している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や家事、ゲーム等、日常生活全般に於いて、利用者一人ひとりの意向に沿った生活の実現に努めている。参加したいレクリエーションが2つあるときは、時間をずらして両方に出来るようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に調理法を教えてもらったり、和気あいあいと準備・片付けをし、職員も同じ物を食べている。食事中的会話は少ないが、落ち着いた雰囲気である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	フロアに一人ひとりの入浴希望日が明示してある。自立者には夜10時以降の入浴希望にも応じている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	模擬店（駄菓子屋）を開いたり、お菓子作りを楽しんでいる。アロママッサージや落語等のボランティアとの交流や、月1回の遠足（花見他）に出掛ける等、気分転換や気晴らしの支援に取り組んでいる。畑仕事や習字等今迄の生活歴を活かした支援もなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は一人ひとりの希望に合わせて、近くの神社や隣の喫茶店へ出掛け、縁側やホーム前の駐車場で日向ぼっこをしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関口の土間の一部が事務をする場所になっており、利用者の言動の把握ができる為、職員が見える範囲に居る時は施錠していない。	○	職員の都合や安全のための施錠から一歩進み、外出傾向のある利用者の行動を把握し、鍵をかけない取り組みに期待したい。地域とのネットワークを考える機会にもされたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議を通して地域の人達と共に、年1回、消防署員の指導で避難訓練を実施している。災害対策への協力体制についても検討していく計画がある。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	貧血のある利用者には食事で補う工夫をし、水分補給が十分摂れない人には寒天やとろみをつけたり、又、刻み食等身体状況に合わせた支援がされている。食べる意欲が低下している人へは声掛けやさり気ない介助がなされている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造の民家であるため自然換気が程よく、日当たりの良い縁側は布団干し場や日向ぼっこの場として利用している。1日のほとんどを過ごしている居間のテーブルにコタツを取り付け、足元が冷えないように改善され、とても温かく、利用者に好評である。	○	要所に木製の手すりが取り付けられているが、利用者の重度化を見据え、非常口の設置を増やし、トイレや浴室の段差解消等も検討されたい。また、トイレの環境に配慮が望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、仏壇や写真、小物等が持ち込まれている。	○	車椅子を利用されているため床の敷物（ござ）が傷んでいる居室があり修繕はされているが、安全面、居心地の良さ等からも、更なる工夫、検討を期待する。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。